



院内認定重症心身障害児(者)専門看護師通信

Vol.3

第40回日本重症心身障害学会学術集会に参加してきました

テーマ「見つめなおそう、重症心身障害医療・福祉の原点」

1975年に小林提樹先生からはじめられた重症心身障害研究会が1996年から「日本重症心身障害学会」となり、「最も弱いものを一人ももれなく守る」を原点に医療と福祉が一体となり、それを支える多くの専門職が参加する学会です。



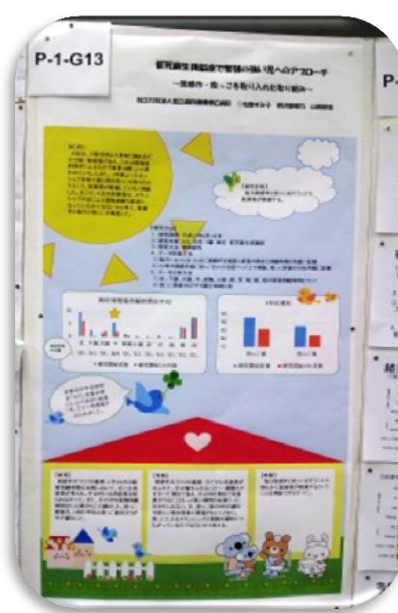
9月26日(金)～27日(土)

京都府京都市開催

他施設2事例



—チーム医療—



—スキンシップ—

トピックス

重症心身障害看護の専門性の向上のため、日本重症心身障害福祉協会に2011年4月「協会認定重症心身障害看護師制度」が設立され、所定の研修(標準カリキュラム180時間)終了と研究論文または課題レポートの審査により、172名の重症心身障害看護師が誕生しています。

今回は、一般演題 257 題が発表され活発な討議がされていました。特別講演では、びわこ学園の高谷清先生による「重い障害のある人の人生が生きる喜びと(生命倫理)」では「医療・介護によって生命や健康が支えられるだけでなく、重い障害のある人たちの人生が生きる喜び、生きがいのある人生であるために、その人たちの持っている能力を見つけ伸ばす役割がある。それが人材育成、ひいては人材確保につながる。重症心身障害というけれど、身体や知能には障害はあるけど、心は障害されていない」というお話に感銘を受けました。

院内認定重症心身障害児者専門看護師

副看護師長 横澤千代子

